

■請願が参議院経済産業委員会に付託されました

5月1日、「福島第一原子力発電所の廃炉化に向けた国家プロジェクトの発足に関する請願」が参議院にて受理され、同月10日、経済産業委員会に付託されました。今後、委員会は付託された請願について審査し、採択すべきか否かを決定します。（詳細は、参議院ウェブサイト以下のページをご覧ください。http://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kouseiseigan/183/yousi/yo1830859.htm）

■川内村でモニタリングを実施しました

4月24日、福島原発行動隊は川内村帰還者支援事業の一環として、川内村被災者からの依頼に基づき2軒の住宅内外のモニタリング作業を行いました。

今回の作業にあたっては東京の伊藤邦夫行動隊員が責任者となり、盛岡の杉澤氏、郡山の関根氏、大阪の黒川氏が参加して4名でチームを編成しました。



午前中は上川内地区内の住宅、午後は下川内地区内の住宅でモニタリング作業を行いました。いずれの地区も村当局による除染が済んでいる地区ですが、空間線量率は両地区でかなりの違いがありました。村当局は第二次除染を予定しているとのことで、線量率の比較的高い地区では私どものデータ提供が意味を持つことになると考えられます。

当日の天気予報は曇り時々雨だったのでそれなりの準備はしてあったのですが、やはり雨中での外回りの計測作業では、計測器を覆ったカバーに雨が当たって見にくかったり、記録紙が濡れがちになるなど、いろいろ難しい点がありました。これを教訓として、今後の作業手順に生かしたいところです。



行動隊は7月以降、檜葉町の帰還者支援として同町被災者住宅でのモニタリング作業を計画しています。

■檜葉町の松本幸英町長と面談

5月10日、塩谷亘弘理事長代行と家森健監事は檜葉町役場（いわき市）を訪問し、松本幸英町長と面談しました。

今回の面談の目的は、4月26日発行の「SVCF通信第35号」にてご案内のとおり、檜葉町と行動隊との間で住民家屋



松本幸英・檜葉町町長(右)と面談する塩谷亘弘理事長代行(左)

内のモニタリング作業活動に関わる「覚書」を交わすための事前交渉をすることにありました。

松本町長からは、「覚書を交わすよう前向きにとらえています。」との回答がありました。また覚書締結は7月を目途とし、事前準備を近々にも開始することを双方で確認しました。

面談には同町放射線対策課の青木課長も同席されました。

■原発事故関連教材のページを作成しました

このたび、モニタリング・チームが中心となって、福島第一原発事故関連の図書・資料の紹介ページを立ち上げました。

2011年3月11日の福島第一原発の事故以来、われわれは否応なく放射線と向き合いながら生活していくことになりました。このページは、公益社団法人福島原発行動隊の活動の一環として、原発事故や放射線、放射性物質について説明した書籍、PDFなどの教材、資料を集めたものです。

ページでは記述の難易度や内容について一定の評価を行っています。この評価はあくまで個々の執筆者個人によるものであり一つの目安にすぎませんが、教材などとして利用される際の参考としてご活用ください。

■主要な活動報告 (2013/4-5)

活動	日付	場所
モニタリング	3/26, 4/24	福島県川内村、富岡町
東電福島復興本社復興担当室訪問	4/26	福島市
檜葉町仮設出張所訪問	4/25, 5/10	福島県いわき市
放射線に関する講義実施	4/28	千葉県柏市
事務局連絡会	4/5, 12, 19, 26, 5/9	滝野川事務所
編集会議	4/19	滝野川事務所
教材プロジェクト会議	3/28, 4/26	滝野川事務所
原発ウオッチャー会議	5/13	滝野川事務所
議員交流活動会議	4/4, 12, 19, 26, 5/9	滝野川事務所

■遠藤雄幸村長が院内集会で講演します

5月23日（木）開催の第24回院内集会では、福島県川内村の遠藤雄幸村長が川内村の現状と今後の見通しについて講演します。ふるってご参加ください（別刷チラシを参照）。

■自主活動 — 関西の有志が福島市で除染活動

関西在住の福島原発行動隊隊員15名がグループ「立ち上がるパフェの会」を立ち上げ、福島市で除染活動を行いました。その活動の様相について隊員の佐伯静雄氏から以下の寄稿がありました。

●遠い関西のハンデをどうする

関西地区は福島の被災地から遠いハンデもあって、警戒地域周辺等で活動できないことへの苛立ちが以前からあった。関西の集会でいつも出る不満は「いつになったら参加出来るのか。これでは福島原発行動隊でなく、行動しない隊ではないか」というものだった。

とにかく一歩踏み出してみようと室岡さんが探し出して来たのが福島市での除染ボランティアだった。福島市の曹洞宗常円寺が中心となって行っている除染活動である。宿泊費は無料、食事原則無料だが、心付けとして昼食と夕飯とで1,000円を出せばOK。これなら高い旅費分をカバーできる。ただし先方が指定する募集期間と人数に従わなければならない。

ボランティア保険に加入し、お寺への参加申し込みを行い、第1回(4月19日～20日)と第2回(5月3日～5日)に分けて出発した。第1回は8人、第2回は5人が参加した。長靴、レインコート、安全靴、ヤッケ、防塵マスク等の装備で、マイカー組は大阪を出発して北陸道から新潟県に入り、当日早朝6時に現地へ着く強行軍だ。新幹線組の中には前日東京で一泊した人もいた。

4月19日、午前8時からお寺でミーティングがあった。参加者は総勢30人で、関東組が多い。この日の仕事は市中心部の本町、早稲町、上町、大町、荒町など県庁や市役所等官公庁のある地区での計測活動である。2人一組で15班に分かれて街中へ出かけた。線量計を2台ずつ持ち、歩道の街路樹脇や側溝、植え込み等に線量計を置く。3 μ Sv/hを超えると警報が鳴る。それを地図の上に記入する。100メートルにつき約20か所ほど計測するが、腰が痛くなってきつい作業だ。

平均すると1～5 μ Sv/hが多かったが、街路樹の下や樋の傍など、場所によっては10～20 μ Sv/hを記録した所もあった。福島第一原発から約60～70kmも離れてい



福島市内で除染作業をする参加者

るのに、放射性物質が気流に乗って山を越え樹木等に舞い降りるのだと地元の人はいう。

こうした放射線量計測のボランティア活動に対して、以前は「商売の邪魔になるからうちの店の前では止めてくれ」と言っていた地元の人も、今では「いくらぐらいありますか」と聞いてくるほど数値に関心が高くなっている。線量計に対する知識も大変深い。関西なら、年間積算値と測定値の違いすら分からない人が大半だろう。

翌日20日は除染班と計測班の二組に分かれた。除染班は早稲町等で前日に白いゼオライトの粉で印を付けておいた箇所を辿り、汚れた土や雑草を除去する。またマンホールの周辺の砂を金ブラシで取り除く。取れなければドライバーで掻き取る。その結果、5 μ Sv/hから0.5 μ Sv/hまで下がった。この作業の繰り返しである。

●除染ボランティアの難しさ

約7時間の作業を終えてビニール袋に入れた汚染土を常円寺の裏山の山頂にある仮置き場のドラム缶へ捨てる。ドラム缶は約850本並んでいる。線量計を置くと10 μ Sv/hを記録した。お寺が除染ボランティアを始めて以来1年8か月でこれだけ溜まった。お寺の敷地だから誰も文句は言わない。もし行政が同じようにしたらたちまち市民の苦情が出ることだろう。除染の難しさが垣間見える。



常円寺の裏山には汚染土を入れた850本のドラム缶が並んでいた

今回の活動は、関西のメンバーが福島原発の被害に対して初めて行動を起こすことができたという意味があり、参加者の間にはようやく一歩を踏み出したとの達成感があった。しかし、これでは誰も思っていない。何よりも自分の体力の限界と能力のなさを感じた。今回は「立ち上がるパフェの会」の名義で参加したが、本来ならば、福島原発行動隊の旗を堂々と掲げて本丸で活動することが本意である。関西地区の会員として次の行動をどうしたらいいのかまだ方針は出ていない。5月19日の反省会、その後の関西集会を通して方針を決める予定である。

(参加者は以下の通り。順不同、敬称略。中川吉基、八代和朗、岩城嵩、北尾政明、谷口孝市、吉岡眞吾、佐伯静雄)

ウォッチャー報告(2013年4月分)

表題	東電HP記載概要	所見
原子炉・燃料プール	1～3号機原子炉及び燃料プールの冷却は安定的 4号機カバー構築(燃料取出し装置)建設順調、3号機も構台設置作業完了	冷却は動的な安定状態といえる 建屋内循環冷却の前提となる除染と漏洩封止は未達
滞留水	地下貯水槽(5.8万トン)からの漏洩が発覚、原因の究明は未済も全量を地上タンクに移送する処置。地上タンク(26万トン)は満水近く、タンク増設の前倒しと臨時貯水場所を選定。ALPS及び地下水バイパス稼働開始	逐次対応で多正面作戦に陥る危険も。効果とリスクの秤量に冷静な判断が必要
燃料デブリ取出しと廃炉準備	2号機のオベフロ・トラス室の線量・障害物を遠隔測定を先行実施。廃炉に関する技術情報の収集と技術開発計画は実施前審査の段階	高線量下での遠隔測定実施は、建屋内作業の前提となる除染と障害物除去の方策を検討するためと推測
環境整備と要員管理	汚染水2次廃棄物安定保管の開発と構内発生放射性廃棄物の集積保管と減容の具体化を模索。要員の正常な雇用に向けてアンケートなど雇用関係を調査・調整	要員の正常な雇用と量的確保について、危機感を持つ